

「総ぐるみ」新聞

入会や活動についてのお問い合わせ先 NPO 総ぐるみ福祉の会事務所
所在地：港南区日限山 4-45-10、Tel 846-8850、Fax 370-7272

特定非営利活動法人(NPO)

総ぐるみ福祉の会 活動概要

◆ボランティア活動

◆介護活動

横浜港のランチクルージング、東京駅や皇居などの見物をして、たいへん好評でした。

▼事務所を活用した会員交流事業
男の料理、きむら・コーヒー(喫茶店)、囲碁、お茶会、手芸工房などを定期的に開催。

▼自治会館を会場にした活動

講演会、音楽会、総会、初釜などの開催。

▼他の団体との交流・広報活動

西洗夏祭り、社協行事、地区センターなどのフリーマーケットなどに参加、共同募金・街頭募金にも参加。

「総ぐるみ」新聞発行、ホームページ

◆介護活動

▼居宅介護サービス

利用者は年間延べ五七〇人、提供回数約六千三百回行っています。

当会が行っている介護保険法によるサービスは、次のようなものです。

- 訪問介護・介護予防訪問介護
- 通院等乗降介助
- 介護保険外サービス、移送サービス
- 障害者介護
- 居宅介護 重度訪問介護
- 移動介護 通学・通所支援
- 同行援護



↑ 日限山荘におけるそば打ち

特定非営利活動法人 総ぐるみ福祉の会は、平成二十四年に設立10周年を迎えました。立ち上げ時18人だった会員も、十年以上経った現在は多くなって、地域の皆様のご協力やご支援に支えられてここまで発展してきました。事務所に困っていた時、家を貸して下さる方があらわれたり、ヘルパーさんに困っていると、ヘルパー研修に行つて当会のメンバーになってくださったり、自ら進んでボランティア活動に参加してくださったり、役員になって会の運営にご意見をくださったりと、思わぬ幸運がついてきてくれます。

今後、地道に皆様のお力をいただきながら、少しずつ充実していきたいと思えます。なにとぞ、よろしく願ひいたします。

本号は、総ぐるみ福祉の会はどんな事業をしているのか、紹介したいと思えます。

理事長 宮崎 浩子

◆ボランティア活動事業

▼「日限山荘」における事業

週2回の昼食会を中心とした「日限山荘」

▼「お出かけサポーター」事業

日頃、出かけにくい方々に、一人ひとりサポーターをつけて、安心してドライブを楽しみ、大船フラワーセンター、横須賀美術館、

▼NPO総ぐるみ福祉の会の移送事業

NPO総ぐるみ福祉の会は、福祉有償運送の許可をとり、公共の交通機関をご利用できない方、通院などにお困りの方の移送をさせていただける団体です。

移送事業を開始以来、10年以上にわたって皆様の様々なご要望・ご依頼に、可能な限り手軽な料金にて対応できるよう努力を重ねてまいりましたが、今般、燃料費の高騰等により、やむなく運賃を改定させていただくことになりました。

改定後の料金は、迎車料をいただくことにしたことで、移送料を少々値上げさせていただきましたことです。

移送介護はとても大切な介護事業で、必要とされる方がとても多い実情があります。ただし、介護保険法で、いろいろな条件を多く付けられています。ご利用の時ご面倒だなど思われることが多く、介護者である当会でも

複雑な事務に悩むこともあります。そのため、どうしても介護保険が適用できない場合がありますが、保険を使わず、保険外サービスで対応さ



→ 事務所における男の料理

せていただくことができます。介護度が要介護1～5の方には、介助料が介護保険料の1割のお支払いですから、とてもご利用しやすいと思います。

ご利用の場合は、事前にお電話をいただくか、ケアマネジャーさんにご相談ください、当会にご連絡ください。

▼当会の訪問介護

利用者さんのお宅に伺い、家事や身体の介護を行います。買い物、洗濯、掃除などの生活援助、オムツ替え、清拭、入浴の手助けなどの身体介護をさせていただきます。

▼当会の障害者介助

通学・通所の移動介助や、買い物やお出かけのお手伝いで、移動支援等を行っています。

○事務所

住所 港南区日限山4-45-10
電話 045-846-8850

○日限山荘

住所 港南区日限山4-7-1
桑田様方

事例検討

『90才を迎えた方の相談』

一柳 朗

先般、独居生活の利用者さんの付添いで、胸部外科の外来受診に行きました。

病院で、下肢と心電図の検査を行い、医師との問診で、検査結果は「特に問題がな

い」との説明を受けました。そして「○○さんは、今年で立派に九十歳の年齢まで生きてこられたのですよ」と話されました。次回は三ヶ月後の予約をして帰ってきました。

先日、内科外来の受診で、同じ利用者さんの付き添いに行き、採血と生理検査を行って待合室にいた時、利用者さんから突然私に、先日胸部外科の先生から言われた一言が気になり、「以前はデイサービスに行っても、元気に国語・算数や見取り暗算などができたが、今は、読み書きもできなくなっていました。頭の中が空になり、記憶がなくなっていました。」と話されました。

察するに、自分でも思ってもいなかった年齢まで生きられたことに、空虚感と、これから先の不安感を感じ、頭の中が真っ白になってしまわれたようです。

この利用者さんは、早くにご主人を亡くされていて、子供3人を一生懸命育て生きてこられた方ですが、このところ急に無気力状態になってしまい、誰かの助けが必要と言われ、我々もできる限りサポートをしていきたいと思いました。

なぜ利用者さんは、急にやる気をなくされたのでしょうか、考えてみました。

高齢になっても、自分自身の楽しみや趣味など、どんなことでも、自分に合う目標を持って過ごすことが大事であると思いました。

長寿を喜んでも良いと思いますが、皆さまは、いかがお考えでしょうか。